



福井県民の将来ビジョン

— 「希望ふくい」の創造 —

平成22年12月

“「希望ふくい」の創造”をめざして

— 『福井県民の将来ビジョン』の策定に当たって —

現在、グローバル化が新たな局面に入り、また、わが国では世界各国に先駆けて本格的な人口減少・超高齢社会が到来するなど、福井を取り巻く環境は大きく変化しています。

このように時代の大変革期を迎える中、活気にあふれるふるさとを築き、次の世代に確実に引き継いでいくためには、県民の誰もが将来に「希望」を持ち、英知と力を結集して福井が直面するさまざまな課題に挑戦し、これを皆で乗り越えていく必要があります。

そこで私は、県民、企業、さまざまな団体、市町、県が力を合わせて行動するための共通指針が必要と考え、福井がめざすおおむね10年後の将来像とこれを実現するための戦略を明らかにした『福井県民の将来ビジョン —「希望ふくい」の創造—』を策定しました。

福井は、少ない失業、高い就職率、夫婦共働き、高い世帯収入など「経済的な豊かさ」、豊かな自然、広い持ち家、三世代同居・近居など「住み良さ」、健康長寿、高い学力・体力、ボランティア活動など「県民の資質・行動力の高さ」が、いずれも全国トップクラスの水準にあります。

こうした福井の優位性と可能性を最大限に引き出し、これを活かしていくことによって、県民一人ひとりが「福井に生まれて良かった、暮らして良かった」と実感できる新しいふるさとづくりを進めていきます。

最後に、このビジョンの策定に当たり、県議会はもとより県民、企業、団体、各市町など多くの方々に参加をいただいたことに対し、心から感謝申し上げます。ビジョンに掲げた将来像の実現に向けて、県民の皆さんと共に全力を挙げていきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成22年12月

福井県知事 西 川 一 誠

— 目 次 —

〔第1章〕福井がめざす姿

1	ビジョン策定の趣旨	2
	福井がめざす方向性、将来像を描く10年ビジョン	
2	ビジョンの性格	4
	県民、企業、さまざまな団体、市町、県共通の行動指針	
3	ビジョンの基本理念	6
	「希望ふくい」の創造	
4	ビジョンの前提となる環境の変化と福井の進むべき方向	9
	(1) グローバル大競争社会への対応	(10)
	①地場産業、農林水産業などの後継者育成と海外販路開拓	
	②アジア最大の原子力エネルギー技術の集積を活かした産業・人材の育成	
	③福井の地理的優位性と歴史的特性を活かしたアジアとの交流拡大	
	(2) 人口減少・超高齢社会への対応	(18)
	①人口構造の変化に適応したライフスタイルの確立	
	②子どもも高齢者も元気な社会の実現	
	③地方と大都市の人口循環の創出	
	(3) つながり希薄化社会への対応	(26)
	①福井に残る絆を活かした地域づくりの推進	
	②行動と交流を生み出す県民気質の醸成	
	③青少年の自然体験・社会経験の機会づくり	
5	福井がめざす将来像	35
	(1) 「縁を活かす」福井流生活の確立と継承	(36)
	①「つながりの力」による課題解決先進県	
	②「社会貢献層」として元気高齢者が活躍する健康長寿社会	
	③貢献心を持った「新しい私」が活躍する社会	
	④福井ゆかりのネットワークによる「ふるさと県民」百万人	
	(2) 「アジア交流ゾーン福井」の成長と未来への貢献	(42)
	①関西・中京などとアジアをつなぐ交流ゾーン	
	②グローバルな視野を持つ若者や企業人を輩出	
	③「ふくいの後継者」育成による商工業や農林水産業の発展	
	④アジアの環境・エネルギー問題の解決に貢献	

〔第2章〕 実現のための戦略

1 戦略の体系	48
Ⅰ 人が生きる（活躍）	51
Ⅰ-1 「人づくり」先進福井 (51)	
(1) 福井流の学力・体力を活かし次をめざす学校教育	
(2) 体験・交流する地域教育	
(3) 「1県民1スポーツ」の健康づくり	
Ⅰ-2 県民活躍社会の創出 (54)	
(1) 「一人もう一役」の活躍	
(2) 女性のゆとりと活動の応援	
(3) アクティブ・シニアがあたりまえの地域	
Ⅱ つながりを活かす（活用）	59
Ⅱ-1 つながりで築く地域社会 (59)	
(1) 子育て応援から「子育て環境」への挑戦	
(2) エイジング・イン・プレイス（地域で自分らしく老いることのできるふるさと）	
(3) 「笑いや楽しみ」の地域コミュニティ	
Ⅱ-2 安全で安心な地域づくり (63)	
(1) 信頼を互いに感じあえる安心生活	
(2) 災害に強い街づくり	
(3) 原子力の安全・安心の確保	
Ⅲ 環境を創る（活動）	67
Ⅲ-1 美しい「福井の風景」創造 (67)	
(1) 多様な環境の保全活動	
(2) 次代に残す農村と街のたたずまい	
Ⅲ-2 環境先端の基盤づくり (70)	
(1) エネルギー技術開発と人材育成	
(2) 低炭素の街づくり推進	

IV 成長を産み出す（活力）	73
IV-1 「福井の産業」新展開	(73)
(1) 「これぞ福井」の技と産地の進化	
(2) 「後継者ブランド」企業の創出	
IV-2 挑戦する農林水産業	(76)
(1) 売れる福井の特産品群の育成	
(2) 豊かな農山漁村の保全と活用	
IV-3 アジアの成長と活力の取り込み	(79)
(1) 販路を開くアジア・マーケットへの進出	
(2) 人が行き交うアジア・ネットワークの強化	
V 交流を広げる（活気）	81
V-1 新時代の街づくり	(81)
(1) 新時代にふさわしい都市改造	
(2) 暮らしを高める「ふくい文化」	
(3) 福井のブランド・観光新展開	
V-2 交流ネットワーク拡大	(85)
(1) 内外の力を活かす「新しいふるさと」	
(2) ローカル・ネットワークの発展	
2 ビジョンの推進方針	88
(1) 県行政の責務と役割	(88)
(2) ビジョンの実現方策	(91)

〔付属資料〕

1 ビジョンの策定経過	94
2 県民アンケート調査の結果	96

第 1 章

福井がめざす姿

1 ビジョン策定の趣旨

(福井がめざす方向性、将来像を描く10年ビジョン)

『福井県民の将来ビジョン』は、これからのおおむね10年先を見通して、私たち福井県民が力を合わせて実行し、実現をめざす県の方向性や社会の将来像を描きます。

(時代の転換期の日本)

終戦から65年が経過しました。わが国は敗戦を機に「欧米に追いつけ 追い越せ」の共通スローガンの下で経済発展の道を進み、私たちは経済的に豊かな生活を送ることができるようになりました。

しかし、バブル経済の崩壊以後の日本は長い間低迷し、雇用不安や格差の拡大を生むなど、「失われた20年」とも言われる時代が今日まで続いています。

今、私たちは3つの大きな環境変化の中にいます。

一つ目は、東西冷戦の終結により急速に進んだグローバル化です。21世紀に入ってから10年間、グローバル化は情報通信技術の飛躍的な発展などに伴い、経済だけではなく、私たちの生活や地域社会のあり方にも直接の影響を及ぼすようになりました。

二つ目は、本格的な人口減少・超高齢社会への移行です。わが国の人口はすでに減少期に入るとともに、出生率の低下による若者の減少と第一線を引退する人びとの増加などによって、日本の経済・社会を支える労働力も減っています。

三つ目は、これら二つの大きな変化と価値観・ライフスタイルの多様化に伴い、家庭や地域社会における人と人とのつながりや自然の中での実体験の希薄化が進んでいることです。

(福井の課題と特長)

このような時代の大きな転換期にあって、私たち福井県民は次のような課題に直面しています。

- ① まず、経済面では、グローバルなコスト競争、後継者不足などによって、繊維・眼鏡などの地場産業や農林水産業が苦境に立たされています。また、中心市街地の活性化が大きな課題となっています。

- ② 次に、高齢化や晩婚化、未婚化などの影響により単独世帯が増加し、また、過疎と高齢化が一段と進む集落が増加するなど、家族や地域の役割・機能の低下が懸念されています。
- ③ さらに、耕作放棄地の増加や山林・山ぎわの荒廃など自然環境の破壊や風景の劣化が進み、生活環境の悪化にもつながっています。
- ④ また、日本経済が長期低迷する中、県や市町の財政も厳しさを増しています。今後、高齢化への対応、高度成長期に整備した橋や公共建築物など社会基盤の更新などによって、財政需要はさらに増大していきます。

その一方、福井には子どもたちの優れた学力や体力、健康長寿、女性の社会進出の高さ、家庭や地域の安定、豊かな自然環境など、私たちが先人から受け継ぎ、また、一人ひとりの努力と協力の下で育ててきた全国有数の暮らしやすい生活の基盤が残っています。

これに加え、関西・中京という大きな経済圏を背後に持ち、かつ日本海に面しアジア大陸に開かれた好位置にあるという地理的特性や、アジアなど諸外国との交流も盛んに行われた固有の歴史を持っています。

また、福井と国内各地、アジアをつなぐ交通基盤についても、長年の県政課題であった舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道の整備が着々と進んでいます。北陸新幹線についても、着実に整備を促進していく必要があります。

（福井が進むべき方向性）

新しい福井をつくっていくために、こうした福井の課題と特長をとらえ、私たちは今後進むべき2つの大きな方向を共有します。

- ① 福井の長所を活かした新しい生き方や生活のスタイルをつくって、次の世代に引き継いでいくこと
- ② グローバル化の中で成長を続けるアジアの活力を取り込むとともにアジアに貢献し、アジアと共に成長の道を歩んでいくこと

さらに、経済や社会が大きく変化する中であって、多くの課題を持つこれからの時代には、自ら考え、決定し行動する「人材」が必要です。この2つの大きな目標の実現を支える「人づくり」の大切さを共有します。

私たち福井県民は、先人から受け継いだ優れた基盤を最大限に活かしながら、知恵と力を結集し、新しい時代の地域活力のかたち、アジアの「成長の先にある課題」の解決モデルを示し、次の世代にしっかりと引き継いでいきます。

2 ビジョンの性格

(県民、企業、さまざまな団体、市町、県共通の行動指針)

このような趣旨で作成する将来ビジョンは、次のような性格を持つものです。

- (1) 福井が抱えるさまざまな課題の解決に向けて、中長期的かつ継続的に取り組んでいくため、今後の県政運営の「道しるべ」とします。
- (2) 特に、この将来ビジョンにおいては、県民と行政が協力しながら、ここに掲げた共通の目標を実現していくことを重視します。
県や市町という行政の目標にとどまることなく、個々の県民や企業、さまざまな団体などの各主体が主役になり、共に考え、行動するための共通の指針とします。

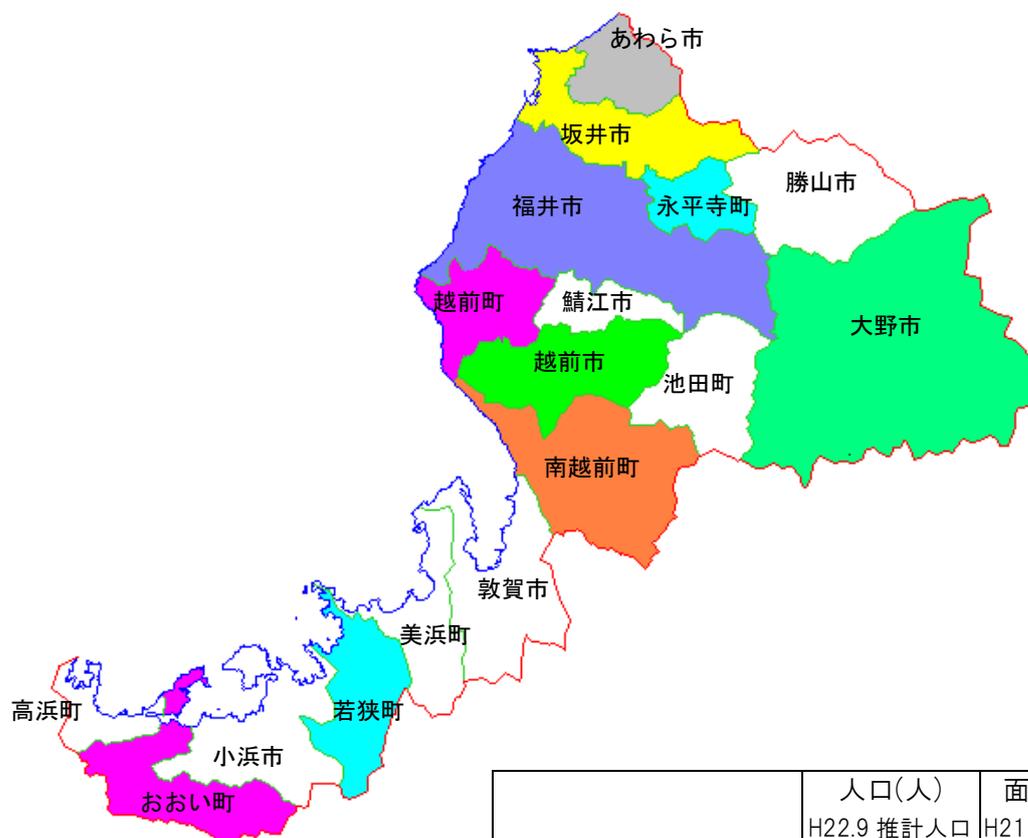
ビジョンの作成に際しては、これまでの県の長期構想のように「行政や団体などの代表が土台をつくり」、出来上がった構想の実現に向けて「県民が後から参加する」という考え方を、次の2つの点で大きく改善しました。

- ① 複雑で深刻な経済的、社会的な課題が増える中、まず、「将来ビジョン検討会議」を開催しました。「人口構造の変化」、「東アジアの成長」、「環境との共生」、「都市と地方の連携」、「新しい人間像」の5つの重要な分野において、県内外の第一線で活躍する有識者、実務者から知見や助言を得て、論点の整理をおこないました。
- ② この整理に基づき、議論を始めましたが、ビジョンの構想・素案の最初の段階から、
 - 「地区別懇談会」(福井、坂井・永平寺、奥越、丹南、二州、若狭の6地区)
 - 「分野別意見交換会」(環境、福祉・医療、子育て・女性、産業、観光、農業、林業、水産業、コミュニティ、教育の10分野)
 - 「市町長との懇談会」(県内17市町)などを開催し、広く県民や企業、さまざまな団体、市町から意見をお聴きしました。これに併せて、5千人の県民を対象にアンケート調査も実施しています。

これから、私たちは行政主導による県づくりという考え方を乗り越え、「県民主役」の福井を共につくっていく必要があります。

経済的、社会的な課題が複雑・高度化し、県民のニーズもますます多様になる今日、県は県民とのパートナーシップをさらに強めていくことが不可欠です。県は市町との連携を強めるとともに、これまで以上に県民に開かれ、信頼される存在となるよう努めていきます。

市町村合併後の福井県



	人口(人) H22.9 推計人口	面積(k m ²) H21 国土地理院	
県 計 (17 市町)	805,372	4,189.59	
市 計 (9 市)	701,283	2,788.40	
郡 計 (8 町)	104,089	1,401.19	
福 井 市	266,837	536.17	
敦 賀 市	67,991	250.98	
小 浜 市	30,992	232.87	
大 野 市	35,389	872.30	
勝 山 市	25,429	253.68	
鯖 江 市	67,424	84.75	
あ わ ら 市	29,968	116.99	
越 前 市	85,468	230.75	
坂 井 市	91,785	209.91	
吉田郡	永平寺町	20,287	94.34
今立郡	池田町	3,041	194.72
南条郡	南越前町	11,486	343.84
丹生郡	越前町	23,044	152.96
三方郡	美浜町	10,418	152.32
大飯郡	高浜町	11,012	72.15
	おおい町	8,816	212.21
三方上中郡	若狭町	15,985	178.65

〔データ解説〕

私たちの生活に密着したさまざまな行政サービスを提供する市町村の合併が全国的に進みました。

福井県内においては、35の市町村が9市8町に合併・統合され、自治の基盤は強化されました。

また、地方分権社会の実現をめざし、国と地方、大都市と地方との新しい関係をつくるための制度や仕組みの導入が検討されています。

3 ビジョンの基本理念

福井の特長を最大限に活かしながら、これから10年先を見通して、先人から受け継いだ英知と勇気をもって激動の時代にふさわしい県づくりをおこなうため、私たちが共有するビジョンの基本理念を示します。

基本理念

「希望ふくい」の創造

優れた福井の特性を自覚し、維持するとともに、次の世代へより良くして残すため、新しいみんなの「希望」をつくり、外に開き、力を合わせ行動しよう

グローバル化、人口の減少・高齢化など、福井を取り巻く環境変化は今後ますますスピードを速め、私たち福井県民がこれから歩いていく道はたいへん厳しいものになると考えられます。

しかし、過去、そして現在の県民の資質と努力の結果、福井にはこうした厳しい環境を乗り越えていけるだけの優れた基盤が数多く残っています。この基盤が、私たちの現在の「生活満足度」を支えており、福井は暮らしの豊かさを実感できる県となっています。

こうした福井だからこそ、私たちは、この豊かさを将来に引き継いでいくことを考えなければなりません。

現代の日本社会は、かつての高度成長期のように「希望が前提」の社会ではなくなっています。将来に対する「希望」が持ちにくい時代が到来しようとする中、福井県民がさまざまな課題を解決していくためには、私たちが「希望」にあふれる福井の姿を共有し、共に行動することが不可欠です。

『福井県民の将来ビジョン』の目的は、私たち一人ひとりの将来はもちろん、子の世代、孫の世代が少しでも良くなるよう、世代をつなぐ「希望」をつくり上げることです。これはまた、県民、企業、さまざまな団体、市町、県が協力して行動するための拠り所にもなります。

県民の誰もが次の世代が良くなることを考え、行動することによって、家族や地域社会の役割の大切さが自ずと意識され、福井の良き伝統・文化が次の世代に引き継がれていきます。

過去から受け継がれた優れた基盤の上に未来に向けて「私たちの希望」を創造すること、また、外に開かれたネットワークを築き「新しいふるさと」のモデルを示し時代をリードしていくことが、私たちの使命でもあります。

